白川・緑の区間における白川夜市の来場者分析

熊本大学工学部　学生会員　○藤本　馨
熊本大学　正会員　星野　裕司
熊本大学　正会員　増山　晃太

1.　はじめに

1-1.　背景と目的

熊本市の中心部を流れる白川周辺の河川空間では，屋台が開かれるなど、人々が集まる空間であった．しかし防災のための河川整備によって川との距離が離れることに伴って人が遠のくようになった．

河川敷地占用許可準則が平成 23 年 3 月に改正されたことによって，都市・地域再生等利用区域への指定を受けたうえで協議会を通して占用許可が得られればイベント利用が可能になり，白川・緑の区間(写真-1)でも都市・地域再生等利用区域への指定を目指して，平成 28 年 4 月 2 日より花見や夜市といった実証実験が開始されている．

そこで本研究では河川のオープンスペースにおける利用実態をアンケートをもとに調査・分析し，河川空間利用の課題把握の一助とすることを目的とする．

1-2.　白川夜市の概要

白川に架かる大甲橋と明午橋の間に位置する緑の区間の図-1 に示す範囲にて，2019 年 3 月から 11 月の 8 月を除いた毎月第四土曜日に開催された．全国で行われているミズベリングの一環として，白川バンクスによって各回の出店店舗の選定・運営がなされている．「*賑わい・憩い・景観維持も含めた『持続可能取組み』」などの実証実験を実施*」「*除草作業や清掃作業等河川敷地の維持管理方法の検討・実施による最適な環境の考案*」「*持続可能な賑わいの場の創出*」ということが趣旨として掲げられている [1)]．

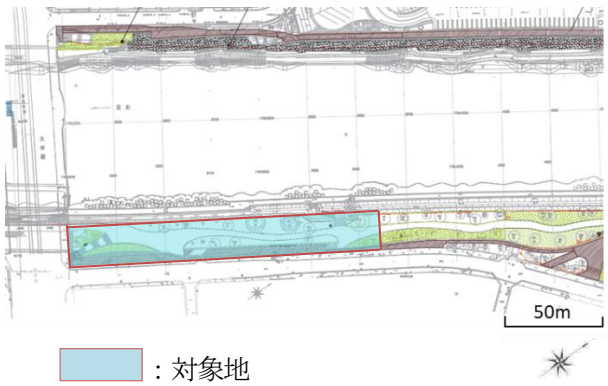

図-1　白川夜市の開催される範囲

2.　研究対象と方法

白川夜市への来場者に対し対面による聞き取りアンケートを行った．3 月に開催された夜市をプレ調査とし，4 月から 11 月の計 7 回の夜市においてそれぞれアンケートを行った．アンケートの内容を以下に示す(表-1)．アンケートは来場者属性・来場手段・満足度を口頭質問で行い、性別・年代・同行者を調査者の主観により調査した．

表-1　アンケート内容

来場者属性	Q1.居住地、性別、年代、同行者
来場手段	Q2.来場方法、Q3.認知方法
満足度	Q4.来場回数、Q5.滞在時間 Q6.消費予定額、Q7.気に入った店、 Q8.気に入った場所 Q9.他に行ってほしいイベント Q10.再来希望、Q11.改善点

3.　調査結果

3-1.　開催日の白川夜市

当日は 16 時から 22 時まで開催されており，4 月から 11 月の計 7 回の夜市でおよそ一万人が来場した．アンケートは合計で 403 枚回収した。開催時の各回の基礎情報を表-2 に示す．

表-2　白川夜市基礎情報

	4/27	5/25	6/22
天気	晴れ	曇り/晴れ	曇り
最高/最低気温(℃)	19.2/12.7	31.7/23.8	30.3/23.8
出店舗数(店)	18	28	34
来場者数(人)	1700	1500	1500
回収数（枚)	62	72	62

7/27	9/28	10/26	1123
晴れ	曇り/晴れ	晴れ	晴れ
31.5/28.4	30.7/27.4	22.5/17.7	21.3/14.9
32	37	25	27
1300	1200	1400	1342
33	61	50	63

また，当日の夜市の様子を写真-1 に示す．

写真-1．実際の白川夜市の様子

3-2. アンケート結果

各項目に関して単純集計を行い，記述回答に関しては分類分けによるコーディングを行った．その結果から得られた白川夜市の特徴として，およそ 9 割が熊本市内から，その内 7 割超が同市中央区からの来場者であり，来場方法では過半数が徒歩・自転車であった．ただし中央区からの来場者の中でも，白川夜市が開催されている左岸側の地域では，右岸側の地域に比べて 4 倍以上の大きな開きが見られ，人口比率[2]を考慮しても 2 倍近くの開きがあった．また，高齢者が他の年代と比べると少ないものの年代のバランスがよく，家族連れ・友人との来場がどちらも 4 割と大きな偏りなく来場しており，性別を除く来場者属性で大きな偏りはないと考えられる．

記述式回答では，気に入った場所としては川の近くや全体の雰囲気，座れる堤防と緑の区間特有の場所があげられた一方，改善点では椅子・机の増設，トイレが緑の区間内に存在しないこと等が多くあげられており，運営に関する改善が必要であると考えられる．

4. アンケート分析

4-1. 各回の傾向

それぞれの設問ごとに各回の割合の推移を，天候や同日に開催されていたイベント等の外的要因も考慮に入れて分析していく．回を追うごとに滞在時間(図-2)，消費予定額が増加しており，満足度も増加していると考えられる．来場回数に関しては平均しておよそ 7 割で大きな変化は見られず，滞在時間は増加傾向にあるものの，開催月によって変動があり外的要因の影響が比較的大きいと考えられる．認知方法は HP の改善，発信媒体の増加に伴い変化が見られた．性別は全体的に女性が多かったうえに後半増加しており，更に分析が必要になってくる．

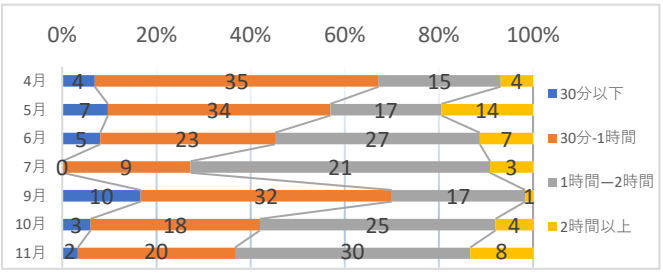

図-2 滞在時間の変化

記述式の設問においても推移を考察したところ，改善点で特に多くあげられた椅子・テーブル，トイレについては減少の傾向があり，改善が見られた．これらの運営面に関しては，各回で得られた反省が次回の夜市に反映されている証左であると考えられる．

4-2. 相関分析

各設問ごとに相関分析を行っていく．相関関係を求めたところ来場手段と同行者，消費総額は滞在時間と年代，同行者の設問とそれぞれ相関がみられた．その他，居住地と来場方法，来場回数とその他の項目との相関，認知方法の変化といったことを中心に分析を行っていく．記述式回答に関してもコーディング後に相関分析を行い，単純集計や各回の傾向でみられた特徴をもとに来場者特性，白川夜市の特徴について分析を行っていく．

5. 終わりに

本稿ではアンケート結果をもとに白川夜市の来場者分析を行っていった．今後は白川夜市の特徴について各回の傾向と相関分析を中心に考察していく．また，アンケートの分析結果をもとに主催団体である Shirakawa Banks へのヒアリングも行い，最終的にはデザイン、運営、利活用の知見から，白川夜市の今後の展望についても考察していく．

【参考文献】

1)「Shirakawa Banks 出店ガイド」，
https://shirakawabanks.site/%e5%87%ba%e5%ba%97%e3%82%ac%e3%82%a4%e3%83%89/ R1.12.26

2)熊本市統計情報室人口統計表
http://tokei.city.kumamoto.jp/content/ASP/Jinkou/default.asp
R2.01.05

3)金那英ら：都市河川のオープンスペースにみられる地域住民の親水行動に関する研究 ランドスケープ研究 2006 年 69 巻 5 号 p.747-750

4)松尾夏奈ら：公共空間としての川床創出の促進に関する研究 都市計画論文集 2018 年 53 巻 3 号 p.488-494

5)ミズベリング信濃川やすらぎ堤 平成 28 年度の実施報告
http://www.city.niigata.lg.jp/shisei/tokei/machisai_top/28mizbering-yasuragi.files/28houkoku.pdf R1.12.26